



歴史的勝利に思うこと

千

字 万 感

名古屋鉄道株式会社
代表取締役社長 安藤 隆司

久々に歓喜の涙を流しました。先日のラグビーワールドカップ、イングランド大会南アフリカ戦での日本代表の勝利です。「ワールドカップ史上最大の番狂わせ」「最高のマッチのひとつ」などの見出しで世界中がこの奇跡に沸いたことは、皆さんの記憶に新しいと思います。試合時間80分を過ぎてからの、最後の逆転トライシーンは何度観ても涙ぐみます。おそらくラグビーを愛する方々のほとんどが私と同じ感動を味わったと思います。

この試合、世界の誰もが南アの勝利を疑いませんでした。しかし、ジャパンを率いたジョーンズヘッドコーチは、ワールドカップの組み合わせが決まったその時から、代表選手にこの南ア戦は必ず勝てると言い続けていたそうです。

会社の社内報にも書きましたが、コーチは就任するとすぐにジャパンの個人、チームそれぞれの能力を徹底的に科学分析して、そのデータを世界のトップチームと比較し、まずは強みと弱みを正確に把握しました。

弱みは言うまでも無く体格差によるパワーですが、ウェイトトレーニングと圧倒的な練習量で体力をつけ、このハンデを補いました。その上で低いタックルとタックル後の素早い起き上がり、キックを減らしパスを多用してボールの保有率を高めるなどの戦術を磨き、ワールドカップに臨んだそうです。

選手は試合後に、これだけ準備したから勝ったのも不思議では無いというようなコメントをしていましたが、なるほどと感じます。こうした強豪に勝つ為の周到な準備が、今回の勝利を呼び込むことになったわけです。

科学的な分析で強みと弱みを把握する。豊富な練習により弱点を埋め、突破口となる戦術を統一する。言葉で鼓舞して精神面のハンデを取り去る。これらの戦略はラグビー以外のスポーツはもちろん、社会の様々な分野で、そして会社経営にも十分あてはまるセオリーであると思います。

また、あきらめずに努力精進すればできないことは無い、夢は叶うということを証明してくれた素晴らしい出来事でもありました。

この原稿を書く時点で残念ながらスコットランド戦には敗れましたが、感動と多くの示唆を与えてくれた桜のエンブレムの面々が、さらに躍動して世界を驚かせてくれることを祈っております。